

こんにちは。  
町長です。



## 自治力の向上を目指して

町民の皆様には新型コロナウイルス感染症の対応に、格別なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。一日でも早くこの感染症が落ち着いて普段の生活が出来るように、引き続き気を緩めないで感染予防対策を取っていただきたいと存じます。また、落ち込んだ地域経済の回復に町としても国、県と力を合わせできる限りの対策を進めてまいります。

まさに国難と言えるこの時期を乗り越えて行くには町民一人ひとりの努力と併せて、地域で支え合うことが重要であると思います。昨年取りまとめた町の総合振興計画でもまちづくりの基本戦略の柱として、今後持続可能なまちづくりのために必要な力として「自治力」を掲げさせていただきました。

町の諸課題を解決するには、行政の力だけで全てを解決することは困難であり限界もあります。町として一括りに見るよりは地区によって課題も様々であり、地区住民が力を合わせてそれらの課題を解決していく地域の力=自治力が今、求められていると思います。

ご存知の方もいらっしゃるかと存じますが、鹿児島県鹿屋市串良の柳谷集落の活動は先進的な取組であり、地域づくりの最高のお手本になると考えます。この集落は一つの小さな行政区で、戸数約130戸、約300人が住んでおり、この行政区の柳谷自治公民館長に1996年に就任した豊重哲郎氏の強力なリーダーシップにより身の丈にあった地域づくりが進められ全国から注目を浴びています。

豊重氏は、柳谷集落のような小さな「むら」に活力を呼び起こすには、「金」ではなく「人」であるという信念の基に、人という貴重な財産を動かすのは、「感動」しかない、補助金漬けで行政に頼りきりでは、集落の力を削ぐだけで集落や人が育たないことを、自分の情熱と行動により証明しました。豊重氏の常に燃え続け情熱全開で行動する姿に、集落の高齢者をはじめとする住民が感動し、命令参加型を廃止し、感動が感謝となって全員が参加する躍動感あふれる自主参加型の集落づくりが進められています。

具体的な取組活動としては、休耕地を活用した「からいも(さつまいも)」の生産、それを活用した「焼酎」の生産販売による自主財源の確保をはじめ、土着菌を活用した畜産ふん尿の悪臭防止や生ごみ処理などに活用する土着菌センターの建設、住民総出で補助金に頼らず建設した運動遊園施設の整備、地域での子育てとしての「おはよう声かけ運動」や「寺子屋」の設置、高齢者世帯に緊急警報装置の設置など、この紙面ではすべてを紹介することはできませんが、素晴らしいリーダーと同じ理念に基づき行動する地域住民の協同により活力ある地域、住んでいて良かったと言える地域づくりが進められています。小鹿野町でもこのような地域づくりが出来る地区がきっと誕生すると期待しています。

また、町としてもそのような地区の活動には全面的な協力をしてまいります。

以前、豊重氏に面会した時にいただいた言葉は、「感動の人生」でした。

小鹿野町長 森 真太郎